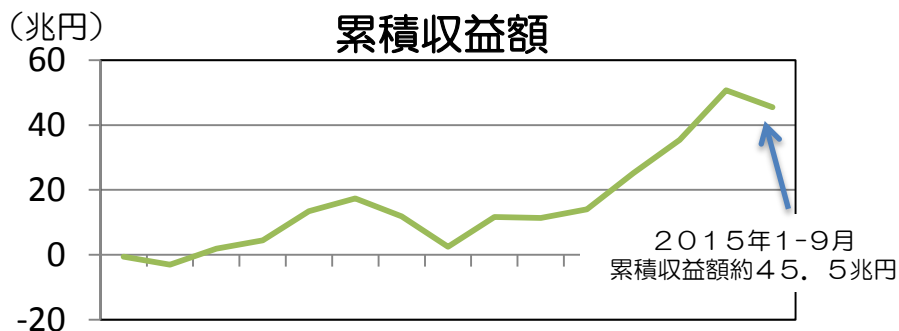


今、話題の日本の公的年金を読み解く

2015年11月、公的年金を運用している年金積立金管理運用独立行政法人（通称：GPIF）が7～9月の運用において約7.9兆円の損失だったと公表しました。これを受けて公的年金の運用そのものに批判的な意見が出ていますが、年金型運用において短期的な視点で運用の評価をすることは、本来の運用の目的を見失ってしまう可能性があるのではないのでしょうか。

GPIF運用の実際

年金積立金運用については法律上、「長期的な観点からの安全かつ効率的な運用」の実施を要請されています。そのため、GPIFは「分散投資」と「長期的な観点から基本となるポートフォリオの策定と維持」を行っています。実際に2001年から2015年9月までの累積収益額は約45.5兆円まで積みあがっており、短期的にはマイナスがあっても長期的にはしっかりと資産を成長させていることが読み取れます。



2001年 2004年 2007年 2010年 2013年

(出所) GPIF 年次データ 期間：2001年～2015年9月まで

評価される
GPIFの運用

GPIFは2015年12月、
アジアンインベスター誌より
「アジアンインベスター インスティ
テュショナル・エクセレンス・ア
ワード 2015」を受賞しました！

(出所) GPIF

年金型運用のポイント

GPIFの行う年金型運用は長期運用の代表的な手法としてしばしば注目されます。将来に備えて運用をはじめたい方や、預金を多くお持ちでインフレ等からの資産防衛を図りたい方はこういった運用手法を参考にさせていただくのもよろしいのではないのでしょうか。

年金型運用のポイント

- ① 中長期的に安定的な資産運用をめざした分散投資
- ② 経済成長を収益の源泉としつつ、物価上昇率以上の運用成果を追求
- ③ 財政状況や投資環境等の変化による運用内容や投資手法の見直し

(出所) GSAM

本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社(以下「弊社」といいます。)が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨(有価証券の取得の勧誘)を目的とするものではありません。本資料に記載された過去のデータは将来の結果を保証するものではありません。本資料は、弊社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された見解は情報提供を目的とするものであり、いかなる投資助言を提供するものではなく、また個別銘柄の購入・売却・保有等を推奨するものでもありません。記載された見解は資料作成時点のものであり、将来予告なしに変更する場合があります。

本資料の一部または全部を、弊社の書面による事前承諾なく(1)複写、写真複写、あるいはその他のいかなる手段において複製すること、あるいは(2)再配布することを禁じます。

<審査番号：26204-OTU-135897> © 2015 Goldman Sachs. All rights reserved.